

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2692700020		
法人名	医療法人社団 外松医院		
事業所名	ハーモニーグループホーム		
所在地	京都府舞鶴市竹屋98-1		
自己評価作成日	平成28年3月5日	評価結果市町村受理日	平成28年6月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/26/index.php?action_kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JigyosyoCd=2692700020-00&PrefCd=26&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪府北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル		
訪問調査日	平成28年4月6日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者に寄り添ったケアを意識し職員全員が利用者との良い関係作りが出来る。出来る限り季節行事を取り入れ(お餅つきや豆まき、さくらドライブ、など)季節感のある施設作りが出来ている。出来ることへの参加(掃除や食事作りなど)して頂き楽しみを持ちながら自立支援を行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当該ホームは利用者の立場に立ちその人らしく穏やかに暮らしていくための支援を大切に考え、日々の暮らしの中で裁縫や習字、食事作り等の個々の利用者の得意なことを発揮できるよう取り組んでいます。地域との交流にも力を入れハーモニカや音楽のボランティアの来訪がある時には併設するデイサービスの利用者と一緒に楽しむ他、今年度は利用者が作成した物を展示するホームの文化祭を地域の方を招き開催し交流すると共にホームのことを知ってもらう機会にもなっています。また重度化に伴い利用者の状況に変化があった時には、医師と家族と共に話し合い病状説明や今後の方針を共有し看取りの支援に取り組んでいます。家族の協力を得たり連絡を密に取り、ケアの方法を話し合いながら職員間の連携良く支援しています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝の朝礼時にスタッフ全員で理念を唱和し常に意識を促している。	互いのことを思いやることを大切に考えられた法人理念を基にホーム独自の方針が作られ、理念の実践に向け年度ごとに目標を掲げ取り組んでいます。理念が浸透するようホーム入り口に掲示したり年度初めに説明し、職員会議で利用者がその人らしく穏やかに暮らせるよう意見を出し合い支援に繋げています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し地域行事の参加を出来る限り行っている。	自治会長から地域の情報を得て、地域の災害対策で行われる炊き出しや地蔵盆等に参加しています。地域のふれあい喫茶には不定期に参加しており、今年度は職員もボランティアとして行く予定をしています。ハーモニカや音楽のボランティアの来訪があり、併設するデイサービスの利用者と一緒に楽しんでいます。ホームで行う文化祭や餅つきは地域の方を招いて交流の場となっています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設行事の中で介護支援相談や健康相談などのコーナーを作り地域住民の参加の声掛けを行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	自治会長、市高齢者支援課、地域包括、家族会会長の参加を頂きいろいろなご意見を参考にさせて頂いている。	会議は家族代表や町内会会長兼民生委員、市職員、地域包括支援センター職員等の参加を得て隔月に開催しています。ホームの活動や行事等の報告を行い、意見交換を行っています。ホームから文化祭で介護相談などの行いたいことを発信したり、参加者から行事についての案をもらい実践するなど、有意義な会議となっています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に毎回出席して頂いており、事業所の報告、市からの報告とさせて頂く中で情報の交換ができています。	運営推進会議やホームの敬老会、消防訓練等に市の担当者の出席がありホームの状況を知ってもらっており、相談事や質問があれば電話で聞いたり直接窓口に出向いています。市が立ち上げたグループホーム連絡会に管理者が出席し情報交換しています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の勉強会を持ち理解を深めている。現在身体拘束を行っている利用者は無。	年に1回は身体拘束についての勉強会を行い、日々の関わりの中で言葉掛けや対応で拘束に繋がるような具体的な事例をあげながら職員が理解できるように取り組んでいます。通常日中は出入り口の鍵は掛けず、外に行きたい様子が見られたら一緒に外に出たり寄り添い拘束感を感じないように支援しています。	

ハーモニーグループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者は研修会に参加し、施設内においても勉強会を実施している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護についての勉強会を実施している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時の説明を十分に行い、入居後も疑問点が無いか伺っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会会議などで意見を伺いそれらを運営に反映させるようにしている。	3か月毎にホーム便りを送りホームや利用者の様子を伝え、年に1回行う家族会や面会時、電話等の際にコミュニケーションを図り家族から意見を聞いています。個別のケアについての意見や要望が多く都度個々のサービスに反映したり、家族からの意見を受けて衣類の管理方法を改善するなど運営に活かしています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的及び必要時に個人面談を取り入れながら意見を聞くようにしている。	毎月行う職員会議で意見交換をしながら業務改善に繋げ、発言の少ない職員からも意見を聞くように配慮しています。家庭用の加湿器の管理についての意見から業務用の加湿器の購入に繋がったり無駄のない備品管理についての意見が出され取り組むなど、職員の意見や提案を運営に反映しています。また年に1回個人面談を行い個々に意見や提案を聞く機会を作っています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者の報告や、職員個々の状況を把握しながら頑張っている職員に対して給与や賞与に反映しようと努力している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	意欲のある職員に対しての研修への参加は積極的に進めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者の活動に協力的でありいろいろな取り組みに対しても理解を示している。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	可能な限り本人の訴えや希望に対し耳を傾けながら、それぞれの思いに気づく努力をし、時間をかけながら誠実な対応を心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初期の間はこまめに連絡を取り信頼関係を作れるよう対応しています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	出来るだけ多くの情報を収集し、ご本人とご家族の希望が取り入れられるよう努力している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の立場に立ち、思いを尊重し共に生活を送るよう処遇方針にも上げ努力しています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族と職員との関係も大切にし、関わりを持っていただくよう努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人がこれまで関わってこられた関係が保てるよう、希望される場所へ出かけたり、来ていただいたり関わりが保たれるよう努めています。	以前からの友人や近所に住んでいた方の来訪があった時には、利用者の様子を事前に伝えたり椅子を準備しお茶を出しゆっくりしてもらえるように配慮しています。家族と墓参りや法事に出かける方には外出に向けて連絡調整や準備などの支援をしています。年賀状を書いたり投函なども利用者のできないことを支援しています。	

ハーモニーグループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	時々の言い争いもありますが職員が間に入り仲間意識が持てるよう努めています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても相談や出来ることへの努力につとめる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	その方の立場に立ち気持ちシートなど活用し思いに気づけるよう努めています。	入居時には本人や家族から生活歴や好み、暮らし方の希望等について聞いています。入居後は日々の関わりの中で得られた思いに繋がる情報について職員にアンケートを行いまとめたり、把握の困難な方は毎月行う職員会議で本人本位に話し合い思いの把握に努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に出来るだけ多くに情報を収集し、入居されてからも本人やご家族との会話の中から把握できるよう努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送りや職員会議で現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員会議や申し送りから意見を出しケアプランに反映している。	入居時には本人の思いや家族の希望、アセスメントを基に介護計画を作成しています。3か月毎の見直しの際には、計画作成担当者が職員に聞き取りを行いながら評価を行ったうえでカンファレンスで話し合い、往診時の医療情報や再確認した家族の希望を加味し介護計画を作成しています。介護計画は日中や夜間に分けたサービス内容で立てられ、計画にそって記録がしやすくなるよう工夫しています。	初回の介護計画作成の際にはアセスメントを行っていますが、見直しの際にはモニタリングや評価にとどまっておらず、心身の状況の変化を捉えるために今後再アセスメントを行っていく予定としていますので、その実施が期待されます。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録がケアプランのベースになっており、その中での気づきや工夫からケアプランの見直しに行かしている。		

ハーモニーグループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個別に対応できるように努めています。その時々々の訴えに対し臨機応変な対応を心掛けている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	出来るだけ散歩など地域に出かけ挨拶などを通じて覚えて頂き、1人で外に出られる時には声をかけて頂くようお願いしています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医はご本人、ご家族の希望をお聞きし受診や訪問診療の支援をさせて頂いている。	入居時にかかりつけ医を継続できることも説明していますが、全員が24時間連絡可能である協力医の往診を月に2回受けています。往診結果は書面や電話で家族に伝えています。専門医や歯科への受診は家族や職員が状況に応じて受診支援を行い、家族と行く場合は必要に応じて書面で情報を伝えています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職は利用者の健康上気付きや変化があれば看護師に報告出来ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には医療連携室と情報交換や相談ができるよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合はご本人、ご家族に施設で出来ることを伝えその都度考えられるようにつとめています。	入居時に重度化や終末期の対応指針にそってホームでできる支援内容を伝えています。重度化に伴い医師と家族と共に話し合い病状説明や今後の方針を共有し看取りの支援に取り組んでいます。家族の協力を得たり連絡を密に取り、ケアの方法も話し合いながら支援し、支援後は振り返りを行っています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルを置き、勉強会や研修を実施しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練を行い、地域の方や家族会からも参加を頂き体制を築いている。	年に2回併設する施設と合同で行う消防訓練は、昼夜を想定し通報や初期消火、避難誘導等の訓練を行っています。運営推進会議で地域の方に訓練の案内や報告を行い、自治会長や副会長の参加を得たり連絡先を教えてもらっている方もおり協力を得ています。地域の防災訓練にも利用者に参加し、水や食料の備蓄を行い災害対策に取り組んでいます。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	処遇方針を毎日唱和し、職員の意識付けを行いプライバシーの保護に努めています。	接遇マナーやプライバシーの保護についての研修を行い、日々の関わりの中で慣れ合いにならないよう注意し、入室時のノックや排泄支援時の声のかけ方や大きさに配慮しています。利用者の呼び方についてなど職員間で適切な対応について話合うこともあり、問題のある時には管理者が注意しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	常にご本人の希望を聞くように心がけ、自己決定出来ない方はご家族と相談させていただいている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員優先ではなく、その方の思いを聞きいれ支援するように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人が希望されるものは買い物など一緒に出かけ選んで好みのものを購入できるように支援しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理や片付けなど出来ることへの手伝いをさせていただいている。	調理担当職員が献立を利用者の好みや旬の物、季節のメニューも取り入れて立て、利用者も一緒に買い物に行っています。食材の皮むきや盛り付けなど利用者のできることに携わり、職員も一緒に食事を摂っています。ホームの畑で野菜を育てたり味噌作り、回転寿司やレストランへの外食等を楽しんでいます。食べれない物の代替え食を準備したり食事形態への配慮も行い食べることを大切に支援しています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体重測定や日々食べておられる様子から健康維持できるようその方に応じた支援に努めています。		

ハーモニーグループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご自分で出来る方は出来るだけ行って頂き職員が確認しています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェックシートを活用し、パターンの把握、自立に向けた支援に努めています。	トイレでの排泄ができるようにチェックシートを用いて利用者の排泄パターンの把握に努め、個々のタイミングでトイレに行けるように支援しています。日々の変化は申し送りでも共有し支援方法や排泄用品の種類を変更しながら自立に向け取り組んでいます。入院や体調の変化があっても回復と共に元の状況に戻れるよう支援しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	出来るだけ自然排便を促せるよう、運動や食べ物で予防できるよう努めています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本は1日おきになっていますが本人の状況や希望に合わせて臨機応変に対応しています。	週に3~4回午後入浴を基本としていますが、希望に応じて毎日の入浴にも対応したり、足浴を行っています。ゆず湯等の季節湯をしたり、一人ひとりゆっくりと会話をすることで楽しみながら入れるよう支援しています。拒否される方には日時やタイミングを変えたり、声をかける職員を代えて無理の無い入浴に繋げています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室には自宅で使われていた家具など置かれたり入眠の時間も個人の希望に合わせている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬内容に変更があると申し送り時に内容、目的副作用について職員が情報共有できるよう報告しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	嗜好品や楽しみを会話の中から見つけ支援できるようつとめています。		

ハーモニーグループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物や自宅など本人の希望に合わせて外出できるよう支援しています。	気候の良い時には散歩に出かけたり、希望にそってドライブや買い物、理美容等に行っています。また、季節の行事では桜や藤、コスモス等の花見や初詣等企画し出かけたり、亀岡で行われるグループホームオリンピックへの参加、外食に行くなど外出を楽しんでもらっています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居時ご家族とも相談し希望にあわせ財布を持っていただき買い物などご自分で支払出来るように支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話が自室に置けるように回線を引いています、手紙についても希望があれば対応させていただきます。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	畑や花が窓から見える位置に設置したり、ホールにも季節の花を置き季節感を取り入れるように心がけています。	共有空間には多くの生花や写真、利用者で作成した作品などを飾り季節を感じられるようにしたり、畑や花を植えている庭が見て過ごせるようテーブルや椅子を置いています。またソファやいすを多く置き、場所を選んだり少人数で過ごすことができるように工夫しています。オープンな台所からの食事の匂いから家庭的な雰囲気があり、温湿度管理や掃除を毎日行い居心地の良い空間づくりに努めています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご本人にとって馴染みの席はあるがどこにでも座れるように配慮しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時や入居されてからも常に本人やご家族の希望に沿って、馴染みの家具を入れて頂けるように配慮しています。	使い慣れたものや馴染みの物を持って来てもらうように伝え、筆筒やこたつ、座椅子、テレビ、三面鏡等を過ごしやすいよう家族と相談しながら置いています。電話を置き家族と会話をしたり、趣味の裁縫道具やCDデッキを持って来られ楽しめるようにするなど、その人らしい居室となるよう支援しています。入居後過ごす中で好み等に応じてじゅうたんを変えたり家具を追加で持って来られる方もいます。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホール内はバリアフリーになっており、必要箇所に手すりも設置しテーブルや椅子も歩行時手の届くところに置き安全な環境作りをしています。生活の中で出来ることは見守りの中安全に行えるよう支援しています。		